

## R4開始

かわにしまち

# 川西町(山形県)

## 主な品目

- 水稻
- ◆ 豆類(大豆 等)



## 実施体制

川西町、JA山形おきたま、町内生産者・団体、かわにし森のマルシェ、川西町浴浴センターまどか、山形県立置賜農業高校等

## 面積情報

有機農業取組面積:29.6ha  
 耕地面積に占める割合:0.6%  
 (令和5年度時点)

## 1 背景・課題

川西町では長年有機農業に取り組む熟練農業者が点在していたが、より連携して環境負荷の低い農業を面的に広げる機運の高まりを受け、地域ぐるみで有機農業を推進するに至った。有機栽培に取り組む生産者は着実に増えており、今後は新規転換者が各々に合った栽培技術確立していくことや、消費者に有機農業への理解をより深めてもらうことが、有機農業の維持拡大にあたっての課題になると考えられる。

## 2 成果目標

### 有機農業の取組面積の拡大

R4年度 27.1ha → R9年度 29.1ha

### 有機農産物の販売数量の拡大(枝豆)

R4年度 7,800kg → R9年度 13,800kg

### 有機農業に取り組む農業者数の増加

R4年度 14人 → R9年度 17人

## 3 主な取組内容

### 生産

- 専門家を招いての生産者向け研修会の開催
- 先進地視察による新しい知見の獲得
- 地域に波及する人材(有機JAS審査員・ウネ作り屋さん※)の育成
- 水田の雑草対策にかかる機械の実証実験・デモンストレーション

※ウネ作り屋さん・・・菌ちゃんふぁーむ主催の研修会に参加し、試験に合格することで認定される。高畝作りの請負人。

### 加工・流通・消費

- 学校給食への有機農産物の提供
- 町内産直施設における有機農業フェアの開催
- 有機転換者の販路開拓に向けたサポート
- 教育施設における丸太高畝(埋め込んだ丸太が糸状菌にゆっくり分解されて養分源となる高畝)の設置



町内圃場見学会の様子。新規有機転換者から熟練有機農業者である「やまがた有機農業の匠」に至るまで、様々な生産者の圃場を見つつ、栽培手法について意見交換した。



町立小松保育所内の丸太高畝栽培の畑。元々荒地だったが、地元住民や保護者ら多くの人々の協力によって整備された。



町内産直施設「かわにし森のマルシェ」で例年開催している有機農業フェアの様子。店内には有機農産物販売コーナーを常設している。

## 4 これまでの成果

商談会で有機農産物に対する高い需要を体感したことなどを契機として、R6年度は新たに7人/団体が有機栽培に取り組み始めた。

【有機栽培への転換者数】

R3年度 0人/団体 → R6年度 7人/団体

## 5 今後の展望

生産面については、町内圃場見学会の継続的な実施により、地域ぐるみで栽培技術の更なる向上を図っていく。また、学校給食で有機農産物を提供する際に生産者の講話を実施する、丸太高畝栽培など非農家でも取り組める農法の普及を推進するなど、より多くの人々の有機農業への理解促進に繋がるような取り組みを進める。